

長田中だより

令和8年10月15日

第10号

校長 藤田 明子



沢登り
一年生

★歴史探訪！！ 「長田のたまねぎ」

長田に「たまねぎ」を持ち込んでくださったのは、松武甚作さんだ。松武さんは、明治12年の生まれで、長田を代表する篤農家であった。

大正7年、8年ごろ、たまねぎの試作地として県の農事試験場の委託試験地に松武さんの畑が指定された。

松武さんは、先進地の淡路島まで赴き、^{おもむ}現地の様子を見て学ぶほど研究熱心な方であった。

当時の諫早市の交通手段は、徒歩やかご・馬車であったそうだ。馬車では、諫早市から小長井まで片道約一時間半かかったそうだ。諫早駅開業は明治31年11月27日のこと。まだ先である。

そのような中、諫早市から瀬戸内海最大の島である淡路島にたどり着くだけでもどれだけの苦労があっただろうか。想像に^{かた}難くない。

時を経て、昭和3年には長田村の玉ねぎの生産が軌道に乗り、年間84トンの出荷を誇った。大正7年玉ねぎの試作をはじめてから、10年の時が経っている。

10月23日（金）、諫早市内外から18名のゲストを招いて「ふるさとの10年後に向けて、今できることを考える」座談会を開催します。話題の中心にこの「長田たまねぎ」があることは、間違いありません。松武甚作さんをはじめ、先人は、どのような思いで「たまねぎの栽培」につくしたのでしょうか。人々の暮らしが楽になるように。健康でなおかつ経済の足しになり、ふるさとの自慢となる農作物があればと。座談会が楽しみでなりません。

★ 諫早市中学校総合体育大会駅伝競技 記録よりも記憶に残る素晴らしい選手

7月30日、午前7時30分、気温31度

そのような中で駅伝の練習は開始しました。土取コーチ、平野先生、釜元先生、石田先生、そして練習に参加したすべての子どもたち。途中で参加できなくなった人、選手に選ばれて走った人。思いはそれぞれです。中には、直前でけがをした人、けがした足をかばいながら参加した人もいました。皆さんのがんばりに深く感動しました。

女子Aチーム4位

女子Bチーム15位

男子Aチーム14位

土井心晴さん（1年）3区 区間賞

駅伝大会後の円陣



10月下旬行事

21日（水）諫早市中学校音楽会

23日（金）研究発表会

30日（金）長輝夢祭

長田小学校・中学校音楽会